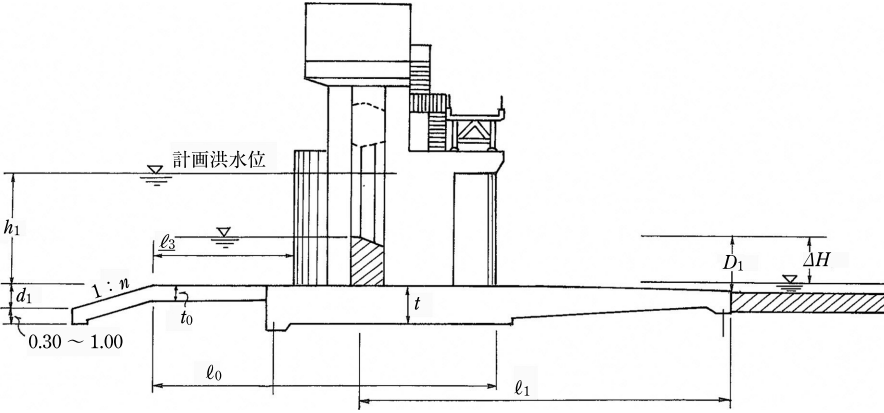
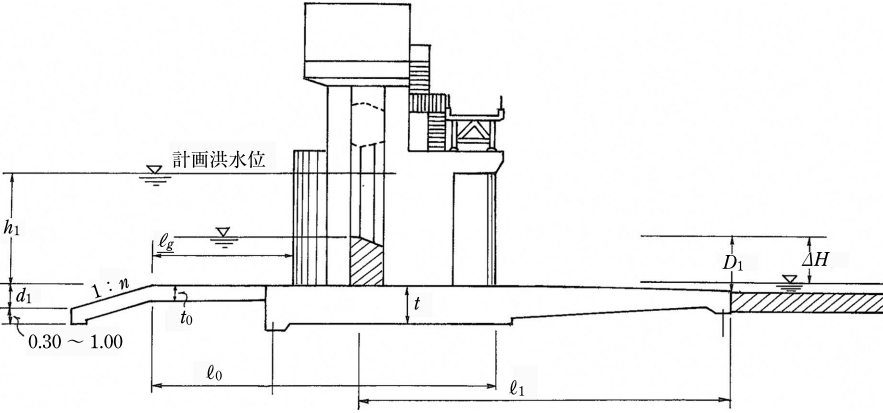


ページ・行	誤	正
p. 229 図-12.1.1	○構成施設における耐__の回復・向上有無（耐震性能向上等）	○構成施設における耐 <u>力</u> の回復・向上有無（耐震性能向上等）
p. 235 下 7 行目	b. 堰柱__及び堰柱基礎以外の各構成要素においては…	b. 堰柱、 <u>ゲート</u> 及び堰柱基礎以外の各構成要素においては…
p. 239 表-12.2-11	注 1) 堰柱の許容残留変位量は、14.2.2(11)を参照し、堰柱基礎工の許容残留変位量は、__を参照する。	注 1) 堰柱の許容残留変位量は、14.2.2(11)を参照し、堰柱基礎工の許容残留変位量は、 <u>18.3.5 許容変位量と残留変位量</u> を参照する。
p. 309 式(12.7-27)	$R_L = \begin{cases} 0.8882\sqrt{N_a/1.7} & (N_a < 14) \\ 0.8882\sqrt{N_a/1.7} + 1.6 \times 10^{-6} \cdot (N_a - 14)^{4.5} & (14 \leq N_a) \end{cases} \dots\dots\dots (12.7-27)$	$R_L = \begin{cases} 0.0882\sqrt{N_a/1.7} & (N_a < 14) \\ 0.0882\sqrt{N_a/1.7} + 1.6 \times 10^{-6} \cdot (N_a - 14)^{4.5} & (14 \leq N_a) \end{cases} \dots\dots\dots (12.7-27)$

ページ・行	誤	正
<p>p. 328 図-14.1-1</p>	 <p>図-14.1-1 洪水吐断面説明図</p>	 <p>図-14.1-1 洪水吐断面説明図</p>
<p>p. 328 下 8 行目</p>	<p>一般的には、長さ l_0 のうち、堰柱上流部 l_3 は堰柱幅の 3 倍程度とする。</p>	<p>一般的には、長さ l_0 のうち、堰柱上流部 l_g は堰柱幅の 3 倍程度とする。</p>
<p>p. 395 6 行目</p>	<p>(4) $D+h_c$ の点線と H_2 の実線の交点より大きな<u>流域</u>においては完全跳水が生じない。</p>	<p>(4) $D+h_c$ の点線と H_2 の実線の交点より大きな<u>流量</u>においては完全跳水が生じない。</p>
<p>p. 395 9~10 行目</p>	<p>(6) $D+h_c$ の点線と H_2 線の交点より小さい流量において、H_2 線と $D+h_c$ 線に囲まれた領域は露出射流から跳水あるいは波状流となる。</p>	<p>(6) $D+h_c$ の点線と H_2 線の交点より小さい流量において、H_2 線と h_c 線に囲まれた領域は露出射流から跳水あるいは波状流となる。</p>
<p>p. 398 下 8~9 行目</p>	<p>すなわち、上記(1)の l_2 区間の手法による。</p>	<p>すなわち、上記(1)の l_2 区間の手法による。</p>
<p>p. 643 表-27.1</p>	<p>無筋コンクリート 堰柱 擁壁</p>	<p>鉄筋コンクリート 堰柱 擁壁</p>